

学校だより

行方市立麻生中学校
TEL 7 2 - 0 1 2 0
Fax 7 2 - 2 3 0 5



<http://www.sopia.or.jp/asojh/toppa>
e-mail asojh@sopia.or.jp
第10号 平成22年12月14日

頑張れ！後期生徒会役員！

11月26日（金）に生徒会役員の立ち会い演説会が開かれ、その後投票が行われました。その結果、次の人たちが平成22年度後期生徒会の役員に選出されました。

会長	2年1組	大輪	貴正
副会長	2年2組	永作	俊
同	1年3組	川嶋	光輝
書記	2年1組	額賀	七彩
同	1年3組	高田	凜央
会計	2年1組	阿井	俊祐
同	1年3組	伊藤	朱音



麻生中学校の更なる躍進のため、いろいろなことに積極的に取り組み、よりよい学校にしてほしいものです。

頑張ってます！麻生中生！

芸術の秋を迎えた2学期には、麻生中学校の生徒がたくさん賞をいただきました。その努力をたたえ、ここに紹介させていただきます。

行方教育部会発明工夫作品展金賞	1年1組	坂本竜一朗	永作優樹
同	銀賞	2年2組	高野 愛果 高野 志穂 3年1組 小沼 夢華 吉崎 百菜
同	銅賞	1年1組	小野口 夢 2年2組 井上 望 大川 晟良 箕輪 京華
行方教育部会科学研究作品展金賞	1年1組	佐藤 絵美	
同	銀賞	2年1組	関根 美空 元木 晴菜 湧田 光
同	銅賞	2年2組	菅谷 吏紗 上田 未奈 宮内 美咲 永作 俊 柳原 あゆ美 田崎 彩夏
同	銅賞	1年1組	永作 花香 箕輪 京香 根本 照美
同	銅賞	1年2組	越川 綾芽 諏訪 華子 荒張 芙々希 1年3組 額賀 美歩由
同	銅賞	2年2組	栗又さくら 3年1組 石橋彩加 越川瑠奈 3年2組 杉山観月
平成22年度少年の主張茨城県審査出品	2年2組	羽生 愛理 箕輪 雅之	
茨城県児童生徒発明工夫展鹿行地区展銀賞	1年1組	永作 優樹	
茨城県児童生徒発明工夫展鹿行地区展銅賞	1年1組	坂本 竜一朗	
茨城県児童生徒科学研究作品展鹿行地区展銅賞	1年1組	佐藤 絵美	
第10回関東地区ものづくり作品展優良賞	2年1組	藤原 佐希 3年1組 井上 一樹	
いばらきものづくり教育フェア「児童生徒作品コンクール」優秀賞	2年1組	藤原 佐希 3年1組 井上 一樹	
火災予防運動ポスターコンクール最優秀賞	3年1組	羽生 佳奈絵	
同	優秀賞	3年1組	栗俣 董
同	佳作	1年3組	山崎 大輝 越川 綾莉
中学生の税についての作文コンクール関東甲信国税局管内納税貯蓄組合連合会会長賞	2年2組	須田 千尋	

中学生の税についての作文コンクール潮来紳士連会長賞	2年1組 額賀七彩 土子和	2年2組 坂本恵梨	3年2組 杉山観月
平成22年度茨城県小中学校芸術祭美術展覧会書写の部県入選	1年1組 藤枝 千咲	3年2組 永作 佳穂	稲川 知香
平成22年度茨城県小中学校芸術祭美術展覧会絵画・デザインの部県入選	3年1組 浅野 菜月	3年2組 石橋 優里	
平成22年度茨城県小中学校芸術祭美術展覧会行方地区選考会			
書写の部 行方地区教育会長賞	2年2組 宮内 美咲		
絵画・デザインの部 行方地区教育会長賞	2年1組 湧田 光		
第48回中学生作文コンクール 都道府県別生命保険文化センター賞 3等	3年1組 荒張 英好		
同	佳作	1年2組 宮内 将悟	2年2組 田崎 彩夏
		3年1組 羽生 享哉	3年2組 伊藤 栄梨
茨城県小中学校読書感想文コンクール優秀賞	2年1組 越川 明日美		
平成22年度「介護の日」作文コンクール県知事賞	2年2組 羽生 愛理		
※ 羽生さんの了解を得ましたので、作文を最後に掲載いたします。			
青少年の主張作文コンクール優秀賞	2年2組 榊原 あゆ美		
同	優良賞	2年1組 額賀 七彩	
同	佳作	1年1組 永作 花香	1年2組 内山 優花
		1年3組 茂木 崇翔	
		2年2組 坂本 恵梨	3年2組 前川 紗也加
第46回J A共済茨城県小・中学生書道コンクール佳作	1年2組 諏訪 華子		
同	入選	1年1組 佐藤 絵美	藤枝 千咲 大里 七香
		2年1組 越川明日美	2年2組 栗又 さくら
		3年2組 永作 佳穂	稲川 知香
行方地区手をつなぐ子らの作品展佳作	1年1組 吉崎 真緒	2年1組 小倉 孝夫	3年2組 大堀 健

茨城県知事賞 「幸せおにぎり」 行方市立麻生中学校2年 羽生 愛理

「ありがとう。ありがとうね。」

おばあちゃんはしわくちなな手で私の手をぎゅっと握りしめながらこう言った。久しぶりに訪れた母の職場での出来事だ。私の母は、お年寄りのための通所介護施設で働く介護福祉士である。

そんな母の口癖はこうだ。「お年寄りや体の不自由な人の体のお世話は当たり前だけど精神的なケアはもっともっと大事な事なのよ。」と。病気やケガで体の機能が衰えると人には自然と笑顔が消えていくというのだ。だから母は常々色々な話題を通しては、その方々一人一人に合わせて、時にはじっくりと時間をかけて向き合うという。

実際に私が遊びに行った時もこんな事があった。あるおばあちゃんは、最近御主人を亡くしひどく落ち込みそれが原因で出されている食事に一口もはしをつけようとしなかった。昼食の時間がだいぶ過ぎても母は、たわいのない世間話などをしながらゆったりとおばあちゃんに寄りそい相手をしていた。そして静かに立ち上がり、冷めてしまったおかずを温め直すよう食事係の人に頼み、ついでになぜだかおにぎりを二つ作ってもらい一つを私に、もう一つをおばあちゃんにそっと差し出した。私は少しびっくりしたが、「一緒に食べてもいいですか？」と聞いてみた。おばあちゃんは、にっこりと笑ってそして涙を浮かべながら少しずつおにぎりを口へ運んだ。私もついうれしくなって一緒におにぎりをほおばった。何かのきっかけが、おばあちゃんの食べる気持ちをやり起こしたようだ。

それは母の魔法のような言葉かけだったのかもしれないし、私を気遣ってくれたおばあちゃんの優しさだったのかもしれない。介護といえ、重たく大変なイメージだったがごく自然に向き合い、お互いが歩み寄れば笑顔が見られる。何よりもその人に寄りそい、耳を傾ける事が真の介護なのではないか。とあの日食べたおにぎりを通して私はそう感じた。

－受賞コメント－

受賞と聞いて、びっくりしましたが、とても嬉しかったです。介護の職場で働いている母も、とても喜んでくれました。介護の仕事と聞くと、大変な仕事だと思っていましたが、母の話や実体験を通して、介護の仕事はやりがいのある仕事だと思いました。